

令和2年度 山口県立周防大島高等学校(久賀校舎)領域別自己評価表 校長 松本 弘美

1 学校教育目標		2 現状分析		3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題		4 自己評価	
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	(評価基準の達成)	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者評価	意見・要望等
<p>1 学校教育目標</p> <p>輝(さん)として輝き、熱誠(わっせい)こめて社会の人材の育成 ～他者とのつながりの中で、総合的な人間力～ 総合的な人間力: 至誠一貫(誠意・まこと・夢・理想・志・チャレンジ精神・起業家精神・忍耐力・粘り強さ 等) 自主自立(思考力・判断力・表現力・行動力・責任感・規範意識・自己肯定感・地域肯定感 等) 友愛協働(親しみ・情・福祉の心・思いやり・優しさ・協働性・協調性・連帯感・信頼感 等)</p>							
<p>2 現状分析</p> <p>当面取り組むべき課題として、次のことが挙げられる。 教務: 介護福祉士国家試験の合格に向けて、目標を意識しながら生徒が主体的に学ぶ態度の醸成、授業評価を活用し「わかる授業」の更なる推進 進路指導: 進路支援の更なる充実と介護福祉士としての就職や上級学校(大学福祉系学部への進学等)進学などの進路実現、高い進路意識の持続 生徒指導: 生徒が社会の一員として責任と自覚をもって行動することができ積極的な生徒指導の実践 いじめ防止: 未然防止、早期発見及び早期解決への対応、保護者との連携と協働的な取組の充実 福祉: 介護実習に向けてきめ細やかな指導と確かな知識・技術を身に付けられる専門的な教育活動の充実 業務改善: 2校舎間の情報共有と少人数組織のメリットを活かした効率的な業務遂行、時間外業務時間の縮減推進</p>							
<p>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題</p> <p>○重点目標 (1)深い学びを促し、確かな学力を育成する学校づくり (2)他者とのつながりを深め、健やかな心と体を育成する学校づくり (3)地域と連携し、介護現場のリーダーとなる人材を育成する学校づくり ○生徒チャレンジ目標 きずな ～一人ひとりの絆を繋ぎ、学校全体で前進する～</p>							
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	(評価基準の達成)	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者評価	意見・要望等
教務	・生徒が明確な目標やめあてをもって主体的に学ぶことのできる授業づくり ・「わかる授業」の学習指導の工夫と充実	・実習を中心として、科目を横断してアクティブ・ラーニングなどのグループ活動や、主体的・対話的な活動を積極的に取り入れ、明確で適切な評価をする中で介護福祉士の専門的な力を身に付ける。 ・小テストなど種々の指標で生徒の定着の度合いを把握し、手当てする。	授業評価アンケートで「目標やめあてを意識して授業に取り組む生徒の割合が9割以上である。 「目標やめあてを意識して授業に取り組む、主体的に学ぶことができた」と思う生徒の割合が6割以上である。 「目標やめあてを意識して授業に取り組む、主体的に学ぶことができた」と思う生徒の割合が4割以上である。 「目標やめあてを意識して授業に取り組む、主体的に学ぶことができた」と思う生徒の割合が4割未満である。	4	【成果】 授業評価アンケートにおいて「主体的に学ぶことができた」と感じた生徒は94%で9割を達成している。前回より約5ポイント向上した。2年次は、生徒間で意見を交わし合い企画運用なども行っている。1年次は自主的・意欲的に取り組もうとする姿勢の高まり、積極的な授業態度が育っている。 【課題】 言語活動は発信側と受診側に偏りが見られる場面もあるため、生徒が等しく言語活動ができる展開の工夫が求められる。また考査等での理解度や提出率の差も顕著にある。「わかる授業」の工夫と家庭学習の習慣の定着化が必要である。 【今後の取組】 「わかる授業」の工夫では、引き続きアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、学ぶ目的を明確させた授業展開を行う。授業参観しやすい期間を設定するなど、授業スタイルの見直し・刷新の機会を捉える。また欠課や理解が不十分な生徒には、補講や個別指導を強化し、学習確保の徹底を図る。	授業参観をしたが、少数者の良さを活かした丁寧な授業であった。 ・生徒の主体性が育っていることは、とても良いことと感じている。 ・資格を取得するという大きな目標に向かって、生徒が積極的に取り組む姿勢をつくり出してほしい。	A
進路指導	・生徒一人ひとりの希望に沿った進路指導の充実と希望進路の実現	・面談等で生徒の進路希望を把握し、介護福祉士国家試験模試や課外などを実施することで進路意識を高め、個々の進路実現を図る。 ・進路情報提供の充実を図る。	学校評価アンケートで「充実した面談や個別指導」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と思う生徒・保護者の割合が9割以上である。 6割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 4割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 4割以下の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。	4	【成果】 授業評価アンケートでは、「充実した面談や個別指導」の質問項目の肯定率が91.7%であった。生徒一人ひとりに応じた面談等の個別指導を行い進路指導の充実を目指した。また、就職試験に向けて進路の日を行い、介護福祉士国家試験模試を実施した。これにより、生徒の進路希望に対応し、進路意識を高めることができた。 【課題】 課題としては、現在、2年次生では、自己就職を希望して進路未決定者がおり、今後の進路決定に向けた更なる取組とサポートが必要である。 【今後の取組】 1年次生に進路希望調査を実施して来年度に向けて進路意識を高める。2年次生で就職が未決定の生徒へは、個別に対応を図る。	・目標が明確であり、学校だより等からも、よく指導されている様子が伝わる。 ・進路の方向はほぼ決まっているので、個別指導をさらに徹底させ、生徒のスキルを身に付けるよう指導してほしい。	A
生徒指導	・良好な人間関係を築き、社会規範を遵守する態度の育成	・介護実習や生徒の活動・行事を通して、他者を思いやる言動を促し、立場や場面に応じた言葉遣いや礼節、規則を遵守する態度を養う。	学校評価アンケートで「他者を尊重する言葉遣いや礼節規則」を遵守する態度の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と思う生徒・保護者の割合が9割以上である。 6割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 4割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 4割以下の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。	3	【成果】 アンケートの評価では生徒100%保護者83.4%となっている。授業や実習等の取組を通して介護の専門職としての意識や他者への思いやりについて理解は進んでいる。言葉遣いや礼節について、社会に出る事を想定し、それぞれが状況に合わせた対応が出来るようになってきたと思われる。 【課題】 クラスメイト間の会話や他者への言動について、まだ不十分な面もあると思われる。また、携帯電話の校内使用について学習への影響も含めた指導を行う必要がある。 【今後の取組】 TPOを意識した言葉遣いや礼節について引き続き指導を行う。携帯電話の使用について、引き続き専攻科生に対して目的のある学校生活を送る事が出来るよう指導する。	・重点目標の達成状況として、生徒は100%と思っており、保護者の視点から課題の確認をしてほしい。 ・介護は人を相手にする仕事なので、全員に社会人としての基礎をしっかりと身に付けさせてほしい。	B
いじめ防止	・いじめの未然防止、早期発見、早期解決のための組織的な取組の充実	・定期的なアンケートの実施。 ・いじめはげざった許さないという毅然とした指導を様々な場面で行う。 ・いじめ対策委員会と教育相談委員会を定期的に実施し、生徒が抱える課題について教職員が協働して実践する事項を検討し、周知徹底する。	学校評価アンケートで「ホームルームでの面談や支援が適切に行われており、いじめの未然防止、早期発見および早期解決に学校は組織的に取り組んでいる」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と思う生徒・保護者の割合が9割以上である。 6割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 4割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 4割以下の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。	3	【成果】 学校評価アンケートでは「ホームルームでの面談や支援が適切に行われており、いじめの未然防止、早期発見および早期解決に学校は組織的に取り組んでいる」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と思う生徒の割合は100%、保護者の割合は84.7%であった。 【課題】 いじめに対する取組を継続し、「いじめは許されない行為である」という大前提を引き続き発信し続ける。 【今後の取組】 各教科の授業内において引き続き「人権の尊重・個人の尊重」について個々の理解を深めるとともに、HRRにおける面談や、SC来校日の面談等により生徒の実情の把握に努める。	・継続的に「いじめ防止対策」に取り組む、「いじめはない」と記入できるよう努力してほしい。 ・定期的な「個人面談」を行ったり、SCの活用を進めてほしい。	B
福祉	・確かな知識・技術を身に付けられる専門的な教育活動の充実	・学校内で生徒の習熟度に応じた個別指導を行い、介護実習や介護福祉士の実践に臨む中で、福祉現場で必要とされる基本的な姿勢や実践的な知識、技術の習得を図る。	授業評価アンケートで「福祉の実践的な知識・技術が身に付いた」と思う生徒の割合が9割以上である。 6割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 4割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 4割以下の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。	4	【成果】 授業評価アンケートでは、「福祉の実践的な知識・技術が身に付いた」の質問項目の肯定率が91%であった。個々に実践的な指導が行われており、生徒に福祉の実践的な知識や技術が身に付いている。 【課題】 介護現場では、生徒が苦手とする医療的な知識や、社会福祉全般に関する制度・政策、社会保険制度といった知識の習得も必要となる。そのため、今後、苦手科目においても学習指導をさらにきめ細かく進めたい必要がある。 【今後の取組】 朝学を活用することで、福祉に関する基礎的な知識の定着を図る。介護実習や実技科目で学んだことを再度、座学の授業の中で振り返ることによって、実践と知識の統合と定着を図る。	・学校だより等から、よく指導されている様子がうかがえる。 ・新型コロナウイルス感染症の関心で、十分に体験が出来ない状況であったと思うが、生徒数が少ないことをメリットとして、個別指導や実習内容の充実にも尽力してほしい。 ・国家試験全員合格に向けて、さらに授業改善に取り組んでほしい。	A
業務改善	・見直しを持った計画的な業務遂行と効率的な業務遂行 ・時間外在校時間の縮減推進	・福祉専攻科の学習指導の見直し、計画的・効率的な会議の運用、一斉業務の効率化の推進など、基本的な姿勢や実践的な知識、技術が身に付いた。 ・考査期間中や長期休業中の行事や会議に配慮する。	前年度と比べて業務改善が進んだと感じている教員の割合が9割以上である。 3割以上の生徒・保護者が「よくあてはまる」「ややあてはまる」である。 前年度と比べて業務改善が進んだと感じている教員の割合が4割未満である。	3	【成果】 教職員どうしの事前の打合せにより、職員会議を効率的に運用した。時間外在校時間の月ごとの平均時間は減少したが、業務改善が進んだと感じている教員は6割だった。 【課題】 少人数組織のメリットを活かして情報を共有する。それぞれの意見をすり合わせ、相互に歩み寄る。 【今後の取組】 1年次、2年次における役割分担を具体化・明確化させ、教職員の負担軽減、業務の平準化を目指す。さらなる個別体制と立上げ、組織力を向上させる。一斉業務、一斉業務ワークの周知徹底。	・熱心な先生が多いだけに、時間外在校時間が減少しない面もあると思うが、業務改善に向けて関係者で話し合い、できることから取り組んでほしい。 ・教職員間のコミュニケーションをさらに進めたい。 ・次年度は評価項目の見直しも必要。	B
<p>5 学校評価結果</p> <p>今年度は、「深い学びを促し、確かな学力を育成する学校づくり」「他者とのつながりを深め、健やかな心と体を育成する学校づくり」「地域と連携し、介護現場のリーダーとなる人材を育成する学校づくり」に重点を置いて取り組んだ。学習指導、生徒指導においては、学校評価アンケートで、生徒・保護者とも80%以上の肯定的な評価を得ることができた。情報提供に関する評価はやや低かったため、積極的な情報発信をすることが課題である。 【学習指導】 教員が授業の目標やめあてを明確に提示することにより、生徒の主体的・意欲的に取り組もうとする姿勢が高まった。授業では少数者のメリットを活かし、アクティブ・ラーニングなどのグループ活動や対話的な活動を積極的に取り入れ、福祉・介護の専門的な力を身に付けることができた。 【進路指導】 目標を明確にし、生徒一人ひとりの希望に沿った進路指導の充実を目指した。面談等で生徒の進路希望に対応した。国家試験模試や課外などを実施することで、介護福祉士資格取得に向けて進路意識が高まった。 【生徒指導】 立場や場面に応じた言葉遣いや礼節の指導により、社会規範を遵守する態度を身に付け、状況に合わせた対応ができるようになった。教育相談活動を通して、心身の健康や安全を主体的に維持する能力が育成された。 【いじめ防止】 いじめ防止について、ホームルームでの面談や支援を適切に行い、未然防止に向けて組織的に取り組むことができた。 【福祉】 生徒の習熟度に応じて個々の指導を行い、福祉現場で必要とされる基本的な姿勢や実践的な知識、技術が身に付いた。社会福祉全般に関する知識の習得も必要となるため、学習指導をさらにきめ細かく進める必要がある。 【業務改善】 時間外在校時間の月ごとの平均時間は減少傾向にあるが、業務改善は十分にできていない。一斉業務、一斉業務ワークを周知徹底し、教職員の負担軽減、業務の平準化を図る必要がある。</p>							
<p>6 次年度への改善案</p> <p>【学習指導】 介護福祉士国家試験の合格という目標に向けて、「わかる授業」の学習指導の工夫と家庭での学習習慣の定着を図る。積極的に学習に取り組む姿勢をつくり出すために、引き続きアクティブ・ラーニングなどのグループ活動や主体的・対話的な活動に力を入れる。学習環境を整備し、ICT環境を活用した学習を行う。 【進路指導】 進路意識を高め、介護現場で即戦力となるよう、より高いスキルを身に付ける。生徒一人ひとりの希望に沿った進路実現のために、面談等の個別指導、サポートを強化する。 【生徒指導】 専攻科生としての自覚を持ち、他者への敬意を高める。心身の健康や安全な生活に維持する能力を向上させるために、全教職員でサポートする。 【いじめ防止】 SCとの連携をさらに深めて、生徒の実態に応じた教育相談活動を充実させる。生徒同士の円滑な人間関係を構築させ、継続的にいじめ防止に取り組む。 【福祉】 地域に根ざした専門教育を推進するために、これまで以上に介護福祉施設との連携を深める。介護実習や実技科目で学んだことを介護現場で活かせるよう、知識・技術の定着を図る。 【業務改善】 学習指導、進路指導等に関する協働体制をしっかりと確立させ、日常業務の効率化を図る。勤務時間を意識した働き方を見直し、最終定時時間を周知徹底する。</p>							